

活動報告書

報告者氏名： 井上 賞子 所属： 松江市立意東小学校 記録日：2020 年 2 月 10 日
キーワード 読み書きの困難 コミュニケーション

【対象児の情報】

- 学年 小学校 4 年生 ○障害名 読み書きの困難、コミュニケーションの苦手さ
- 障害と困難の内容
- ・文字と音とのつながりがとりづらく、巧緻性の課題も推察された。そのため、自分の名前を読むことも書くこともできなかった。
 - ・思いをうまく伝えることができず、自発的な発信があまり見られなかった。
 - ・活動への見通しが持ちづらく、定着への取り組みや集中が継続しにくかった。

【活動目的】

- 当初のねらい
- ・情報を共有する方法を増やしていくことで、応答する体験や喜びを重ね、周囲への関心が広がる
 - ・発信や確認の手だてになるよう、文字の読み書きを習得する。

※追加したねらい ・苦手さを補う学び方を知ること、自学年の学習に取り組む

○実施期間 2019 年 4 月から 2020 年 1 月

○実施者 井上 賞子 ○実施者と対象児の関係 ☆担任として

【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

【読む】

- ・自分の名前も、判別できない。読める文字は0で入学。

【書く】

- ・文字だけでなく、絵を描くこともしなかった。

【話す】

- ・吃音と幼児音があり、早口で不明瞭。
- ・声をかけられても反応を返さず、自分から話しかけたり、何かを求めたりすることはあまりない。

【聞く】

- ・理解言語は多いように思われたが、注意の継続が困難で多動傾向もあり、聞いていないように見える。

【行動】

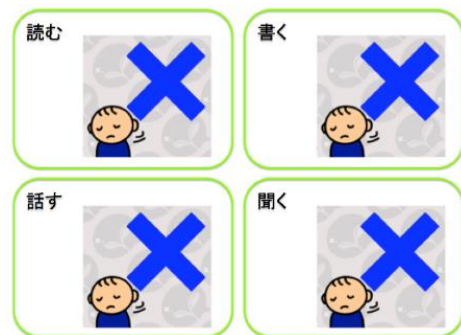
- ・周囲へ働きかけたり意志を伝えたりする経験に乏しく、困ったり不安になったりすると無言でその場を離れたり、歩き回ったりする。
- ・新しい活動や場所に対しては、とても不安な様子を示す。

※就学前の姿からは、軽度の知的な遅れも疑われた。しかし、発信の少なさもあり、本人の願いや思いも、周囲には伝わっていないように見えた。そこで、取り組みやすい方法や確認できる方法を持つことで、「知りたいこと」「伝えたいこと」を広げ、安心できる人や場所を増やしていきたいと考えた。

○活動の具体的内容

1, 情報を共有する方法を増やしていくツールとして

- ①「安心できる関係づくり」を目指して
- ②「関わる対象や機会の広がり」を目指して
- ③「関わり方を次のステージへ」
- ④「思いを受け止めて行動へつなげる」



2. 学習を支えるツールとして

☆ひらがな・カタカナの習得を目指して

☆漢字の習得を目指して ☆文章の読み書きを目指して

☆ノートテイクを目指して

3. 苦手さを補う学び方を知ることで、自学年の学習に取り組むために

→①デジタルノートを活用する

「MetaMoji Note」



→②調べる・まとめる

「ロイロノート」「NHKforSchool」「日本地図マスター 楽しく学べる教材シリーズ」

→③e ラーニングで学習習慣をつける

「スマイルゼミ」「みまもるトーク」



※青いマーカー部分は、1 年生時の取り組みであり、詳細は魔法の種の報告書をご参照いただきたい。

※黄色いマーカー部分は、2 年生時の取り組みであり、詳細は魔法の言葉の報告書をご参照いただきたい。

※緑のマーカー部分は、3 年生時の取り組みであり、詳細は魔法の diary の報告書をご参照いただきたい。

※wallet では、ピンクのマーカー部分だけ報告する。

○対象児の事後の変化

1. 情報を共有する方法を増やしていくツールとして

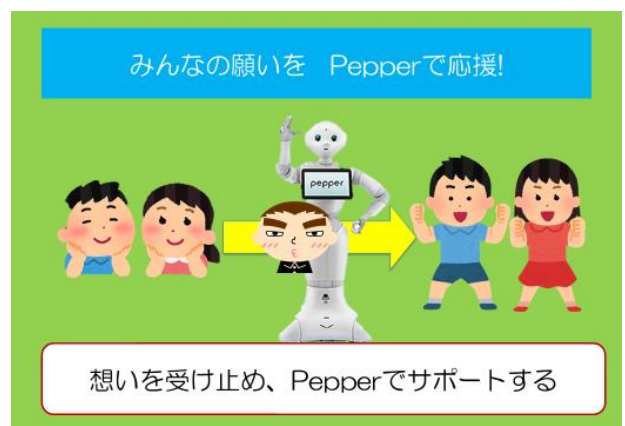
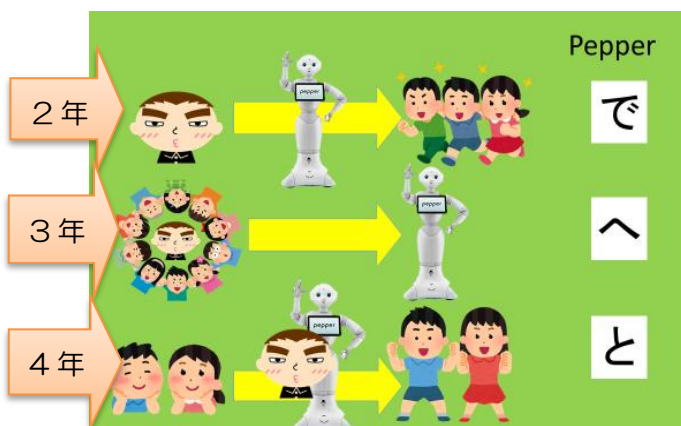
・1 年時、「ByTalk forShool」を活用して「まず是一对一の関係づくり」からスタートし、2 年時から Pepper を活用しての取り組みに移行した。

・誰もにとって魅力的な Pepper を介しての関わりは、対象児童にとって大きな自信につながった。

・3 年時には、友達と協力しながら Pepper とかわかる場面に展開していくことで、やりとりの経験を積んでいく姿が見られた。

※今年度の Pepper へのプログラミングには、Choregraphe を使用した。

④「思いを受け止めて行動へつなげる」～4 年時の取り組み



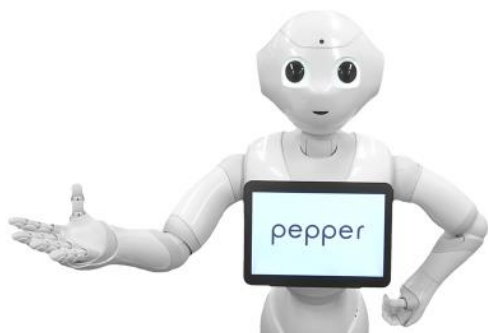
入学当初希薄だった周囲との関わりは、年々大きく変化してきた。4 年生になった今は、身近な友達とやりとりしたり、身近な大人に自分の気持ちを伝えたりすることもできるようになっている。

一方で、困った時には言い張らない優しい性格からトラブルにはならないものの、「相手の思い」には無頓着な様子も見られた。

4 年生は高学年の入り口でもあり、下学年のことを思いやったり、学校全体のことを考えて行動したりする

ことも求められてくる。そこで、「目指せ委員会サポーター」という活動に取り組んだ。その中で、周囲の要望を聞いて自分にできることを考えたり実行したりすることを通じて、相手の想いを受け止めると共に、願いをもって行動している人の存在に気づくことができることを目指そうと考えた。また、役割を果たす中で、「みんなのために行動する」ことの体験を重ね、周囲との関わりをより深めていくことを願っている。

目指せ!委員会サポーター



委員会サポーターとは

- ・意東小学校みんなのために頑張っている委員会を活動をその目的を調べてPepperと応援するチーム

※活動ごとに募集
※studioTAKENOKOサポーター
P.H.C.の仲間



いざ活動を始めようとする、対象児が「委員会」についてほとんど意識していないことが分かった。登校から下校まで、学校生活は高学年によるたくさんの委員会活動に支えられているが、「触れてはいるが意識をしていない」ため「何をしているのか」「何のためにしているのか」も分からない状況であった。

もちろん、活動の中でそうしたことについても学んでいくが、スタート時点の意識づけとして、DropTalkのキャンパスリンク機能を活用して学習教材を作成した。

目指せ!委員会サポーター

目指せ!委員会サポーター	委員会、何をしている你知道吗? 知る 知らない	聞いたことがあるよ! 知ったことあるよ! 委員会、何をしている你知道吗? 知ったことあるよ! 委員会、何をしている你知道吗? 聞いたことあるよ!	聞いたことあるよ! よく知っているよ! 例となく聞いたことがあるよ! あまり知らないよ!
サポーターとは、おうえんする人のことです。福家さんは、意東小学校の委員会のサポーターになれるかな?	すごい! さすがだね! 委員会、何をしている你知道吗? 委員会、何をしている你知道吗? 委員会、何をしている你知道吗?	委員会、何をしている你知道吗? 委員会、何をしている你知道吗? 委員会、何をしている你知道吗? 委員会、何をしている你知道吗?	委員会、何をしている你知道吗? 委員会、何をしている你知道吗? 委員会、何をしている你知道吗? 委員会、何をしている你知道吗?
意東小学校、委員会はいくつあるでしょう? 1 2 3	委員会、何をしている你知道吗? 委員会、何をしている你知道吗? 委員会、何をしている你知道吗? 委員会、何をしている你知道吗?	委員会、何をしている你知道吗? 委員会、何をしている你知道吗? 委員会、何をしている你知道吗? 委員会、何をしている你知道吗?	委員会、何をしている你知道吗? 委員会、何をしている你知道吗? 委員会、何をしている你知道吗? 委員会、何をしている你知道吗?
正解です! 意東小学校に、委員会はいくつありますか?	委員会、何をしている你知道吗? 委員会、何をしている你知道吗? 委員会、何をしている你知道吗? 委員会、何をしている你知道吗?	委員会、何をしている你知道吗? 委員会、何をしている你知道吗? 委員会、何をしている你知道吗? 委員会、何をしている你知道吗?	委員会、何をしている你知道吗? 委員会、何をしている你知道吗? 委員会、何をしている你知道吗? 委員会、何をしている你知道吗?

もともと興味があったテーマではないため、教師からの説明を一方向的に聞いただけでは印象に残らないことが危惧されたが、「自分で読み取り、考えて選択して進む」形にしたことで、今まで参加したり聞いたことがある活動や委員会について思い出したりしながら、しっかり考えて選択して進む姿が見られた。思考した後に「やっぱり」や「知らなかった」が来ることで、今まで無頓着だった「委員会活動」について意識づけをすることができた。

活動は、委員会ごとに以下の流れで行った。

- ・委員長さんにインタビューを申し込む
- ・インタビューを記録する
- ・インタビューの内容をロイロノートに整理する
- ・委員会サポーターとしてできることを考えて実施

「企画委員会編」



あいさつ運動を手伝ってほしいです

あいさつ運動

気持ちの良い挨拶ができる意地っ子を目指して、企画委員のみんなが昇降口に立って挨拶を呼びかける活動



※「おはようスイッチ」

・2018年度の企画委員会が「顔をあげて目を見て挨拶ができるように」と考えた紙製のスイッチ。登校した子ども達は、企画委員会が手に付けたこのスイッチにタッチしながら「おはようございます」とあいさつをするという仕組み。



あいさつ運動①
microbitで
「おはよう
スイッチ」
を応援

今回の活動サポーターNさん

- ・通常学級在籍 ・キーボードの操作が得意
- ・プログラミングに興味があり、以前からQさんの活動に協力してくれている

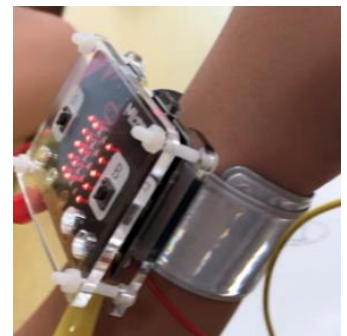
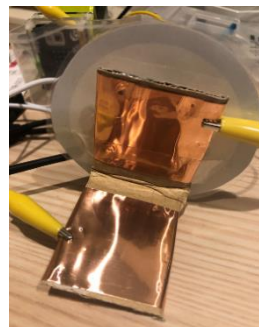
おはようスイッチを応援!



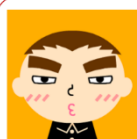
おはようスイッチを押したくなるには?
・曲の工夫 ・カウンターの設置

みんながスムーズに「タッチ」できるには?
・表示の工夫 ・スイッチの素材の工夫

- ・使う場面と意図を意識しての工夫をし
- ・試しながら出てきた課題へ対応を考え
- ・聞いたり、調べたり、試したりの試行錯誤を楽しむ

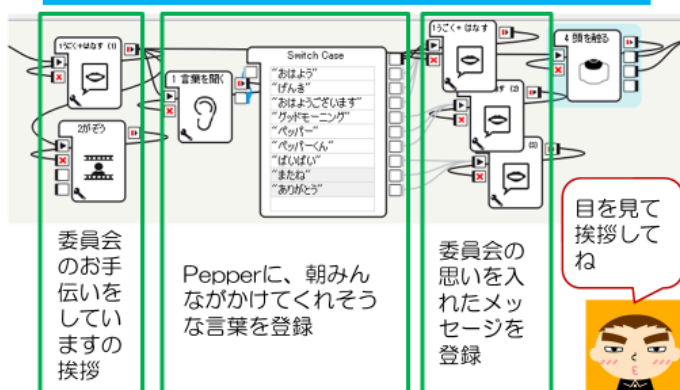


※スイッチを microbit につないで、タッチすると音楽が流れてカウントされるしくみをプログラミング



あいさつ運動②
Pepperで
「あいさつ
運動」を応援

あいさつ運動を応援!



いつもより
たくさん
タッチして
くれた

通り過ぎずに
笑顔で答えて
くれる人が多
かった

やってて自
分も楽し
かった

作ってくれ
たN君に感
謝!



おはようスイ
ッチにも Pepper
にも、たくさん
の子ども達が集

まり、何度も「おはよう」と声をかけたり、スイッチをおしたりする姿が見られた

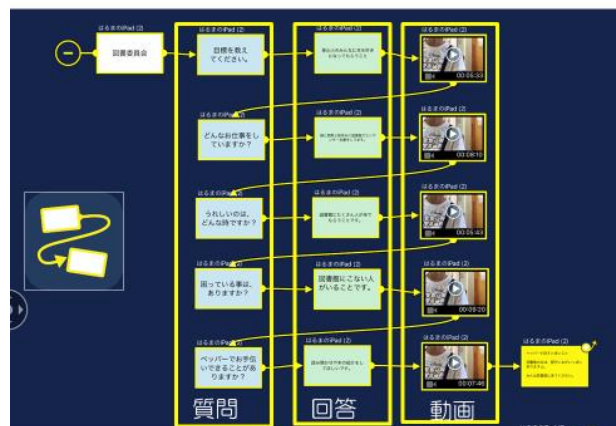
「図書委員会編」



読み聞かせを手伝ってほしいです



絵本をPepperが読んでいくな、前に作った九九のアプリみたいに、画像に合わせて順番に話していくようにすればできそうだな。



読み聞かせを応援!



読み聞かせを応援!



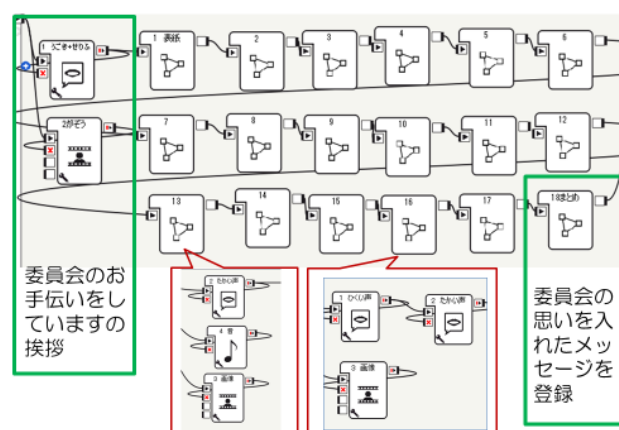
「はるまボックス」
・ライブラリの中にフォルダを作成
・ボックスの名前を日本語に変更
・繰り返し使うボックスを登録

はるまボックス*

- 1 ひくい声
- 2 たかい声 (2)
- 2 上へまいります
- 3 画像 (2)



2ページ分入力しては、ペッパーに送って確認→修正
「本はひらがなになってるけど、漢字にした方が、聞いてわかりやすい気がする」



※ロイロノートにまとめていく際、何度も動画を見返していたため、まとめ終わった際には委員長が話してくれた願いや思いについて、質問するとしっかり答えることができた。

※「声の高さを変える」「ひらがなの表記も漢字で入力する」など、「読み聞かせ」という場面と聞きに来る子の事を考えての工夫をすることができた

※pepper の呼びかけに反応が返ってくるのを気にかけている様子や、委員長さんからお礼を言われて、嬉しそうな姿が見られた。

3. 苦手さを補う学び方を知ること、自学年の学習に取り組む

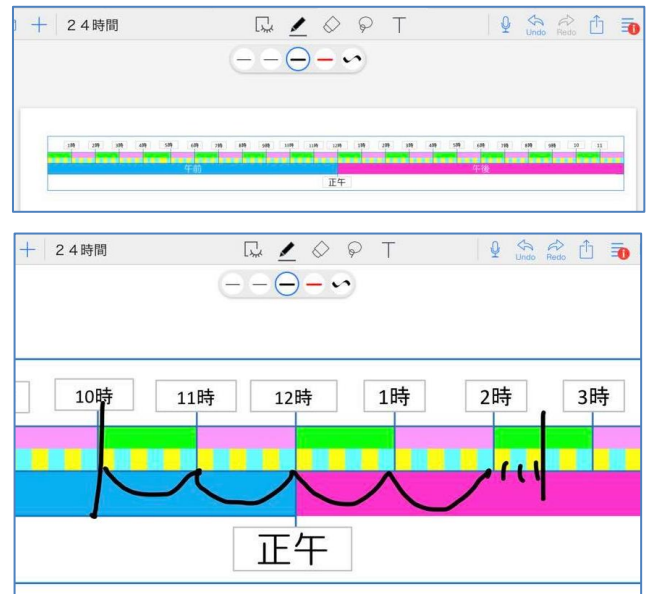
①デジタルノートを活用する

・算数の学習が進んでいく中で、概念的にとらえにくかったり、自分で解決のためのフレームを書こうとすると書き困難のために不正確になってしまったりするものが増えてきた。

・そこで、魔法の diary で報告した「解決への手立てとしてのアナログの手立てをデジタルノートで活用する」を広げていくことで、「自分で解決できる」見通しを支えていきたいと考えた。

○時間

- 時刻については比較的早く定着したが、時間についてはなかなかイメージが持てない様子だった。
- 算数セットに入っている時計を使って解決しようとしていたが、「〇分後」「〇分前」はわかっても、「〇時〇分から〇時〇分までは何時間なん分か」といった問題になると、針をまわしている間に混乱する様子が見られた。
- 時計でなく、長さで感じられるようにアナログの24時間バーを作成して使っていたが、どうしても大きくなってしまい、日常的に携帯しておく方法にはならなかった。
- エクセルで作った24時間バーをPDFで出力し、MetaMojjiNoteに取り込んだ。
- 24時間全てを表示すれば、上の図のように小さくてわかりにくいのが、問題に出てくる時間帯の部分を拡大して表示させることで、わかりやすくなった。
- 書き込みもできるため、「午前時から午後2時30分まで」といった課題の場合、スタートとゴールの時刻に線を引いて書き込みながら数えていくこともできるため、正確に答えることができるようになった。



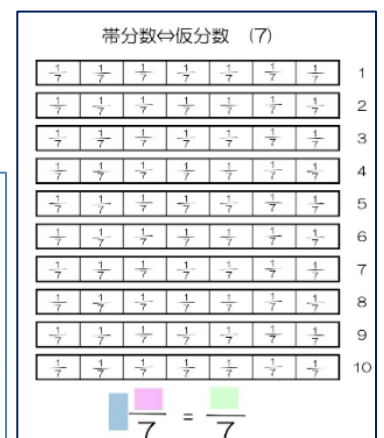
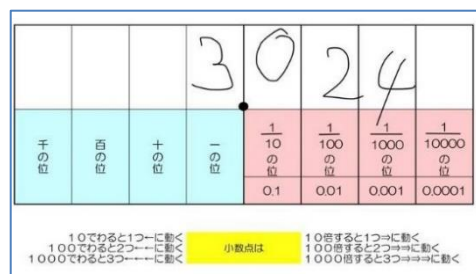
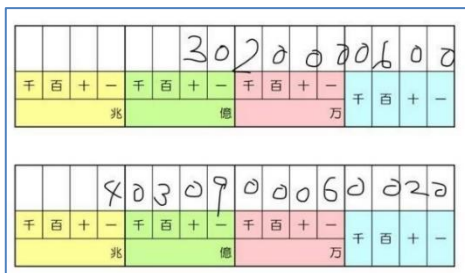
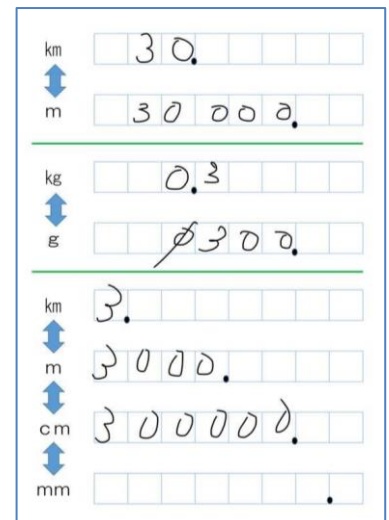
○单位换算

- ・今までも $\text{mm} \Leftrightarrow \text{cm} \Leftrightarrow \text{m}$ 、 $\text{g} \Leftrightarrow \text{kg}$ 、 $\text{ml} \Leftrightarrow \text{dl} \Leftrightarrow \text{l}$ の換算課題には取り組んできた。その都度、 $1\text{cm}=10\text{mm}$ といった情報を確認の手立てとして提示していたが、小数での換算が入ってきたことで混乱する様子が見られた。
- ・換算は、その単位にした際に小数点の位置が変わるということを捉えやすくし、換算の課題解決への見通しが持てるように、換算用紙をPDFで出力し、MetaMojinoteに取り込んだ。

Ex.) 0.3 kg → そのまま g の列に 03 を書く → g の列の小数点まで 0 を書く
→ 0300 とは言わないので最初の 0 を消す → 300 g

※その他、大きな数や小数点の移動にかかわる学習、帯分数と仮分数の換算

等、混乱しやすく定着までに時間のかかる学習についても、自己解決の手立てとなるようなデジタルノートを作成し、いつでも参照できるように MetaMojiNote に取り込んで活用した



※解決の手立てに通じるデジタルノートがあることで、1人で解決して解き進めていくことができる場面が増えた。

※苦手意識の強かった時間や大きな数、単位換算などで方法を得たことで、繰り返しの学習が容易になり、しっかりと学習量が確保できることで定着にもつながっている。

②調べてまとめる・解決する

- ・今までもロイロノートを使ってのまとめ学習は行ってきたが、活動のまとめとして取り組んだり、トピック的な課題について教師と一緒に取り組んだりすることが多かった。
- ・4年生になり扱う情報量が増えてきていることもあり、「調べる・まとめる」を負担感少なく継続することで内容の理解につなげていきたいと考えた。

〇47 都道府県博士になろう

- ・以下のような手順で1県ずつまとめていった。
- ①NHKforSchoolで動画を視聴
- ②日本地図マスターの「たんけん」で、その県の特徴的なトピックを確認
- ③ロイロノートでまとめる
 - ・テンプレートに「県名」「地方名」を入力
 - ・日本地図マスターの地図をスクリーンショットしてとりこみ、県の場所をなぞって強調したスライドを作成
 - ・①と②で見た内容から、「産業」「農産物」「海産物」「名物」「観光」から3つ選んでトピックをまとめていく。その際、画像は①・②のスクリーンショットを利用する。
 - ・自分が行ったことがある場所だったり、知っている情報があったりした場合は付け加える。
 - ・できあがったスライドに解説を吹き込んでいく。

※動画やアプリで知った情報の中から3つのトピックを選んでまとめていく際、スクリーンショットを使うことで、効率的にまとめ進めていくことができた。

※1月末で残りは秋田・青森・岩手・山形・北海道の5道県になり、42都府県のまとめを作成した。

※最初の3県までは、まとめ方をレクチャーしながら進めたが、もともとロイロノートでの学習には慣れていたもので、すぐに1人でまとめていけるようになった。

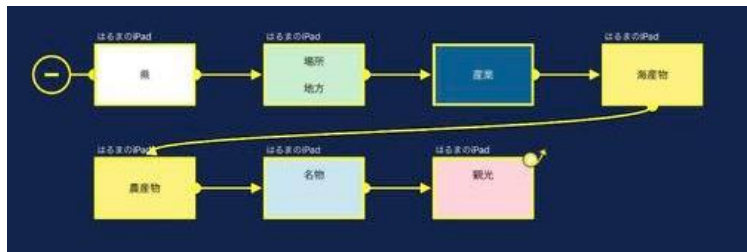
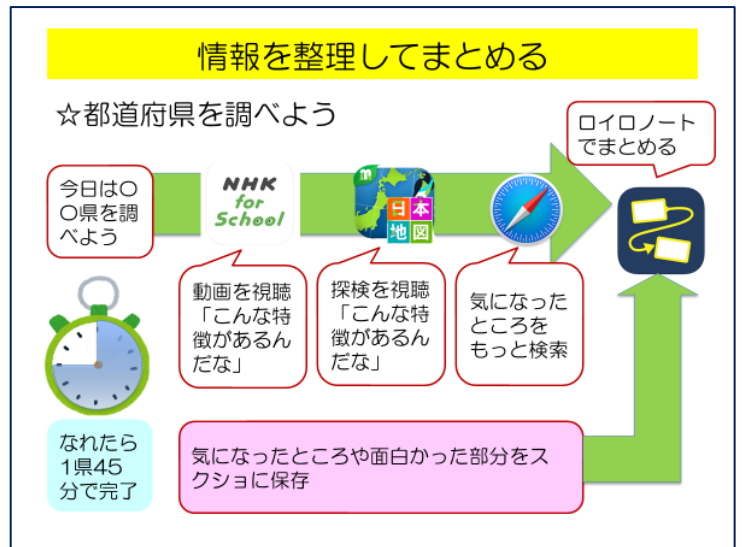
※香川県の時には「動画で見たうどんタクシーは絶対入れたい」と話すなど、まとめることを前提に情報の収集をする姿も見られるようになってきた。

※最初は「広島県は島根県の下です」と言っていたが、「地図だから東西南北」で言ってみようと声をかけた。「えーと、ここは・・・」と考えながら入れていくことで、自然と東西南北の方向を正確に覚えていった

※日常の会話にも「〇〇県だ」と県の名前が出てきたり、位置を意識したりする姿が見られる。

井上先生はどこにいますクイズ

- ・バイトークに送られてくる写真やヒントを手掛かりに、先生のいる県を予想して答えるクイズ
- ・写真を見ただけでわからなかったらそのまま答えるわからない時は、画像検索をしたり、写真を拡大してヒントを探して調べたりしていく





※知っている知識と照らし合わせて考えたり、拡大してヒントを探したりと、解決へ向けて様々な方法を試みる姿が見られた。

※画像検索してもわからなかった時、「ヒントをください」という返信があった。以前なら「わからん」で終わっていたものに、解決するためのアプローチへ踏み出す姿勢が生まれていると感じた。

③e ラーニングで学習習慣をつける

・毎日の課題に取り組むことは習慣化しており、「漢字ドリル 1 ページ」「算数ドリル 1 ページ」「計算プリント 1 枚」

「音読」「英語の調べ学習」に毎日取り組み、週末はデジタルノートへ写真日記を書いてくる。長期休業中は、これに加えて交流学級で出た宿題にも取り組むため、通塾等はしていないが日常的な家庭学習の量はかなりある。

・一方で「出されたもの」にはまじめに取り組めるものの、自分で必要な内容をチョイスしたり、苦手なところを復習したりという学習の設計をしていくことは難しい。

・小学校時代に順調に学習に取り組めていた子達が中学になって戸惑うのが「どう勉強すればいいか」であったことを踏まえ、「学習の形態や内容が大きく変化する中学になっても継続できる学習方法」「誰かがそばにいないくても、自分で情報を取得して学び進めていける学習方法」について、少しずつ準備をしていく必要があると考えた。

・現在は多様な e ラーニングが提供されているが、対象児童がそれを「習慣化」し、「体験を重ねながら自分にとって必要な学び方を探っていく」には、スタート段階での丁寧な伴走が必要だと考え、保護者とも連携をとりながら取り組みをスタートした。



○具体的な活動

- ・取り組み方について、個別指導の時間にレクチャー
- ・毎日の宿題として、自動作成される「今日のミッション」に取り組む
- ・「みまもるトーク」に学習の開始と終了が通知されるため、スタンプを送ったり声掛けをしたりすることで、意欲の継続を図る

※平均して1日30分程度の時間をかけて「今日のミッション」へ取り組むことが継続している

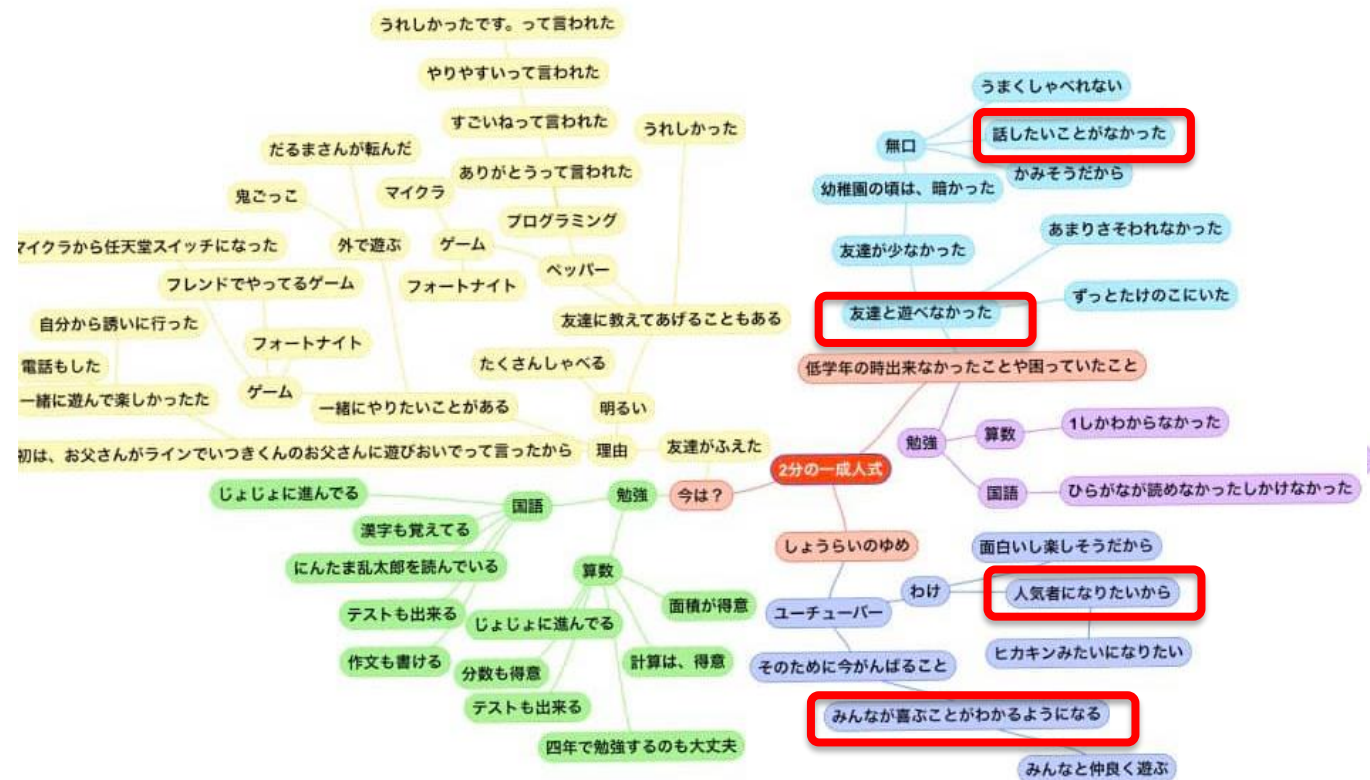
※スマイルゼミのペースが学校での学習より若干早いため、予習の役割を果たしていて、特に理科の学習で新出の用語などをしっかり理解して学習に向うことができています。

【報告者の気づきとエビデンス】

★委員会の願いを知って自分にできることを考え実行した事で、様々な活動には思いや願いが込められていることを感じる事ができたのではないかな

★自学年の学習に取り組むためのツールとして活用した事で、「自分で解決する」方法の広がりにつながったのではないかと

- ・ 2分の1 成人式の作文を書く際のマインドマップから



・Qさんが作文を書くためにまとめていったマインドマップには、「低学年の時出来なかったことや困っていたこと」について「話したいことがなかった」「友達と遊べなかった」と振り返る一方で、現在の「しょうらのゆめ」は「人気者になりたいから」「ユーチューバー」であり、そのために「みんなが喜ぶことがわかるようになる」を目指しているとまとめられている。関わりの広がりの中で、自分自身の変化を感じると共に、「相手の目線」を意識できるようになってきている。

・「無口」や「じょじょに」等、語彙の広がりも感じられた。

☆自学年の学習に取り組むための活動でのエピソードから

・算数では現学年の課題と並行して、3年生のドリルにも復習として取り組んできている。デジタルの手立てが増えるにつれ、「1人で解決できる」場面が増えており、結果として学習量が増え、定着が進んでいる。

・難しい帯分数と仮分数の換算も、視覚的にその関係をとらえることのできるシートを使って反復していったことで、シートがなくても正確に解決することができるようになっていく。業者テストでも、すらすらと解き、100点をとることもできた。

